

Case 55

## Question

**問1** — 鑑別すべき疾患名を2つ選択せよ。

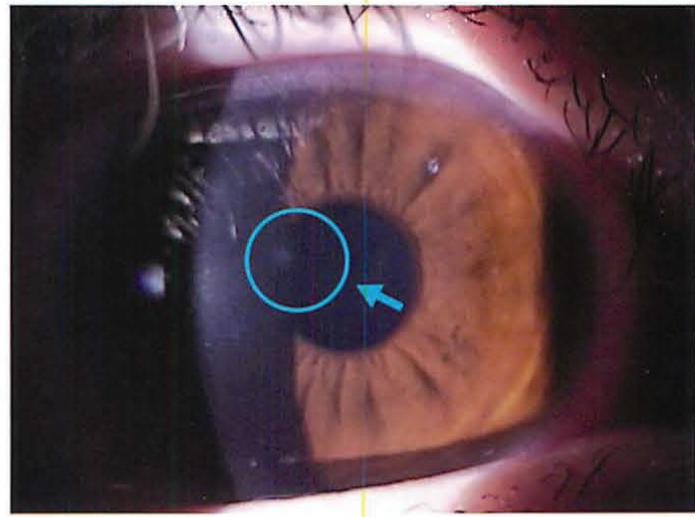
- ①ヘルペス性角膜炎
- ②流行性角結膜炎（はやり目）
- ③春季力タル
- ④コンタクトレンズケア用品によるトラブル
- ⑤麦粒腫（ものもらい）

**問2** — 必要な検査は何か？

写真1 細隙灯顕微鏡所見 右目の結膜充血



写真2 細隙灯顕微鏡所見 右目の角膜点状混濁（浸潤、矢印）



10カ月前に流行性角結膜炎と診断され、治療を受けた。

## 問 1 の 答 え

出題と解説 佐渡一成(さど眼科(仙台市))

**②流行性角結膜炎  
④コンタクトレンズケア用品によるトラブル**

充血や眼脂が急に生じた場合には、流行性角結膜炎の可能性も考えるべきである。流行性角結膜炎はアデノウイルスによる眼感染症で、予後は良好であるが、感染性が極めて高い。流行性角結膜炎を否定できるまでは、通勤や通学を控えさせる必要が生じたり、院内感染の場合は数カ月の病棟閉鎖を要したりする恐れもあるため、他疾患との鑑別が非常に重要となる。

一方、コンタクトレンズケア用品によるトラブルの中には、流行性角結膜炎と臨床所見が似ているものもあるため注意を要する。最長2週間で交換するソフトコンタクトレンズは、レンズケア（洗浄、消毒、保存）を、毎日、正確・確実に行う必要があるが、コンタクトレンズ利用者の増加に伴い、レンズケアが適切に行われていないことに起因する障害も増加している。流行性角結膜炎が疑われた場合は、まず家族や同僚などへの感染を避けるために、水道水による入念な手洗いと乾燥、タオルを分けるよう指導し、専門医へ紹介すべきである。

## 問 2 の 答 え

**問診、アデノウイルス抗原の迅速検査**

最近はアデノウイルス抗原の迅速検査が可能になり、検査陽性の場合は、流行性角結膜炎の診断を早期に付けることができるようになった。だが、迅速検査には偽陰性のケースもあるため、検査結果の判定には注意を要する。

本症例でも、アデノウイルス抗原の迅速診断の結果は陰性であったが、臨床所見も含め、流行性角結膜炎を否定できなかった。

院内感染の危険性が高まるこのないよう、検査は最小限にすることも重要である。本症例はコンタクトレンズを装用しており、しかもレンズケアを適切に実施していないことが問診から疑われたため、コンタクトレンズの利用を休止させた上で、抗菌薬とステロイドの点眼薬を処方した。その結果、翌日には症状が軽快した。

流行性角結膜炎と診断された10カ月前も、不適切なコンタクトレンズのケアによる症状であった可能性が高いと思われる。

**POINT 流行性角結膜炎の鑑別にはコンタクトレンズ使用状態の確認を。**